

3. 退院患者調査

ここでは、新たに発生した高次脳機能障害者を退院患者調査から検討する。また、脳損傷（脳外傷、脳血管障害など）を主たる理由として入院し退院した患者の入院時の状況、後遺症の状況、退院後の施設等の行き先を把握する。

なお、この章における患者は、退院時点では症状・障害の診断がされていない患者も含まれている。

(1) 回答状況について 問1

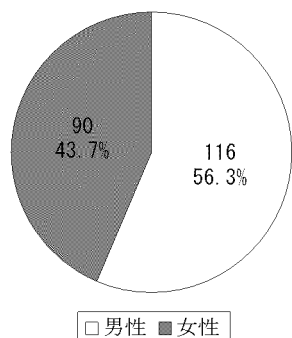
調査票の回収は、651箇所の医療機関に協力依頼し75箇所、206件の回答を得た。

(2) 高次脳機能障害者について

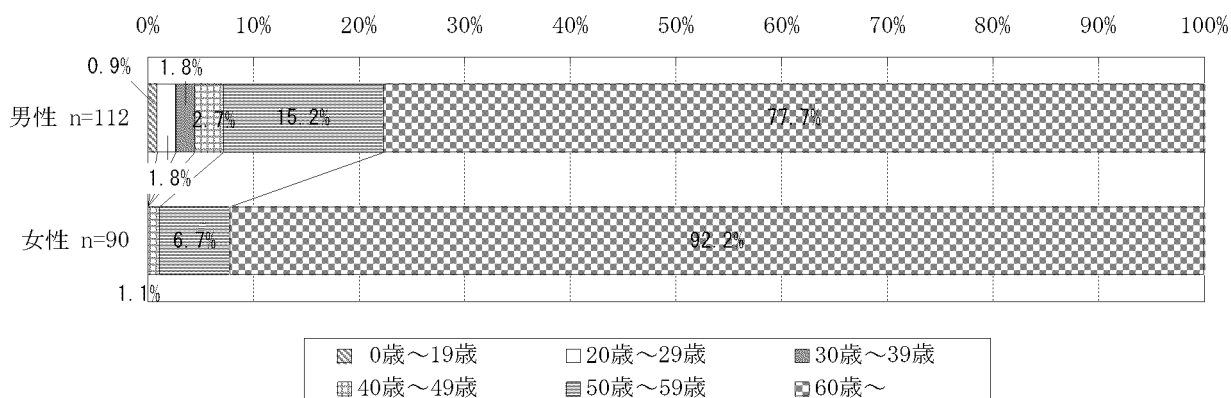
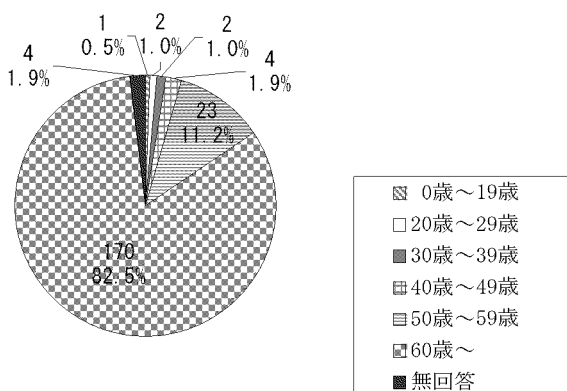
1) 性別と年齢 問2、問3

性別は男性が116人（56.3%）、女性が90人（43.7%）であり男性の方が多かった。年齢別でみると60歳以上が170人（82.5%）で多く、男女別にみても同様であった。また、平均年齢は72.6歳であった。

■性別 n=206



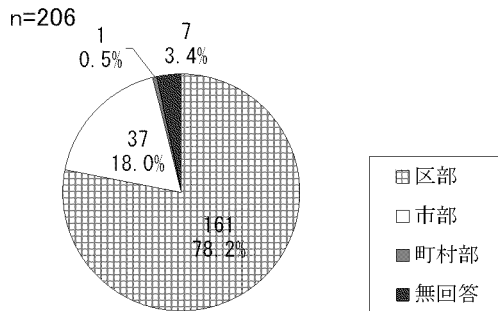
■年齢 n=206



無回答: 4

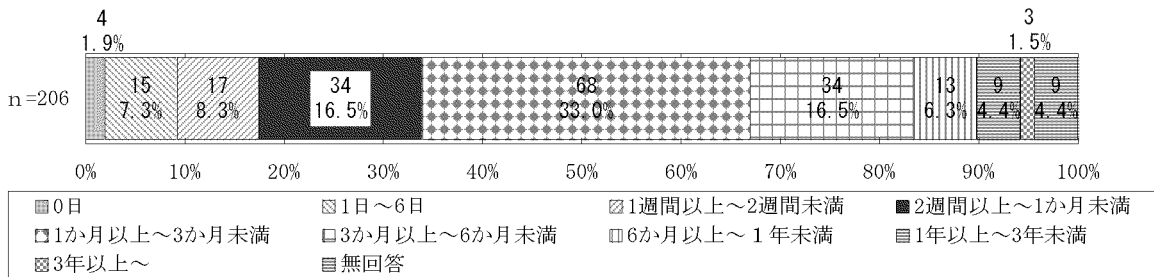
2) 現住所 問4

対象患者について地域別にみると、区部が一番多く161人（78.2%）であった。市部は37人（18.0%）で、町村部は1人（0.5%）であった。



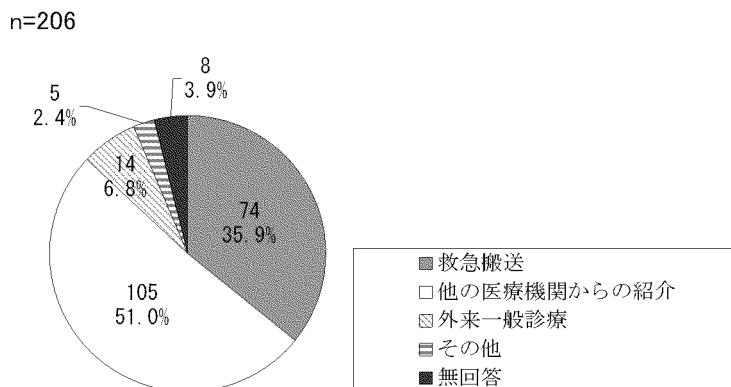
3) 入院期間 問5、問12

入院期間は1か月以上～3か月未満が68人（33.0%）が多く、次いで2週間以上～1か月未満及び、3か月以上6か月未満が34人（16.5%）であった。



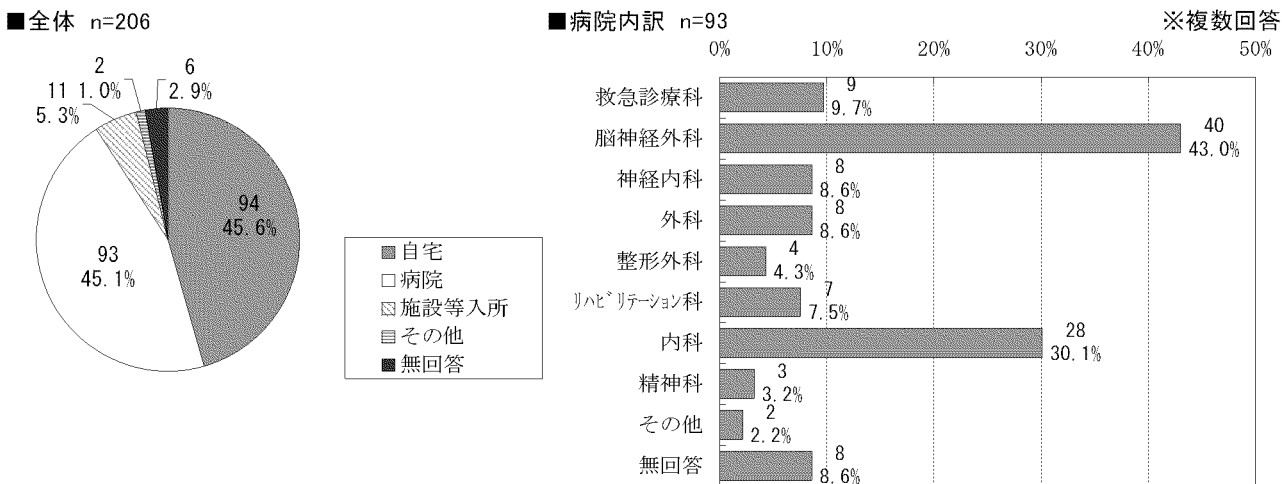
4) 入院経路 問6

入院経路は、他の医療機関からの紹介が105人（51.0%）が一番多く、次いで救急搬送が74人（35.9%）であった。



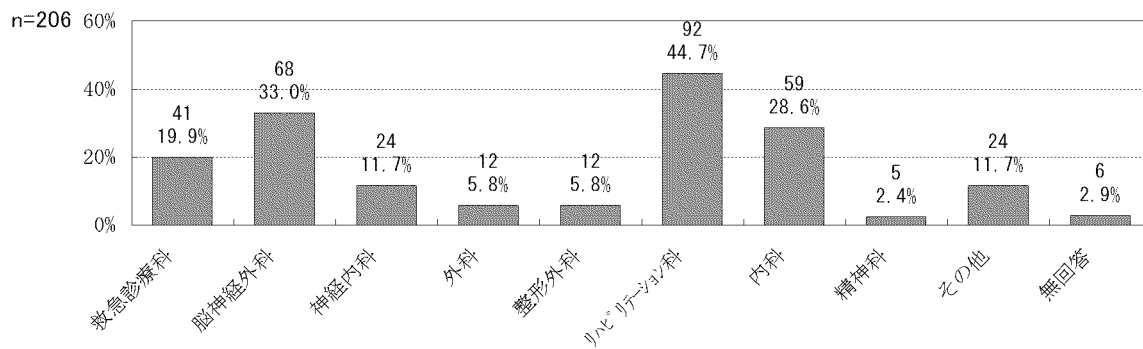
5) 入院前の所在 問7

入院前の所在は、自宅が94人（45.6%）で一番多く、次いで病院が93人（45.1%）であった。また、入院前の病院で受診した診療科は脳神経外科が40人（43.0%）で一番多く、次いで内科が28人（30.1%）であった。



6) 入院期間中に受診した診療科 問8

入院期間中に受診した診療科は、リハビリテーション科が92人（44.7%）で一番多く、次に脳神経外科が68人（33.0%）であった。

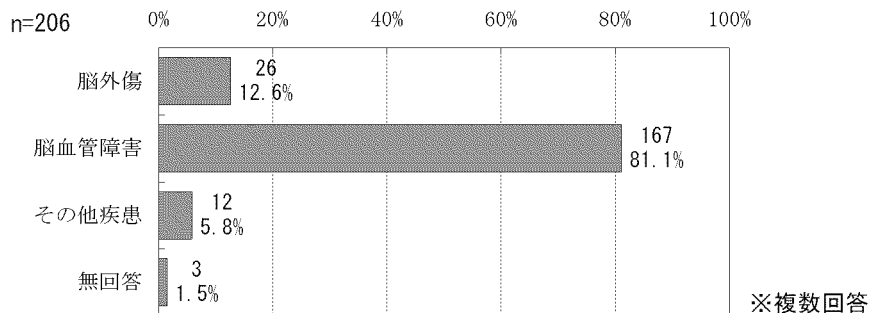


※複数回答

7) 原因疾患 問3、問9、問10

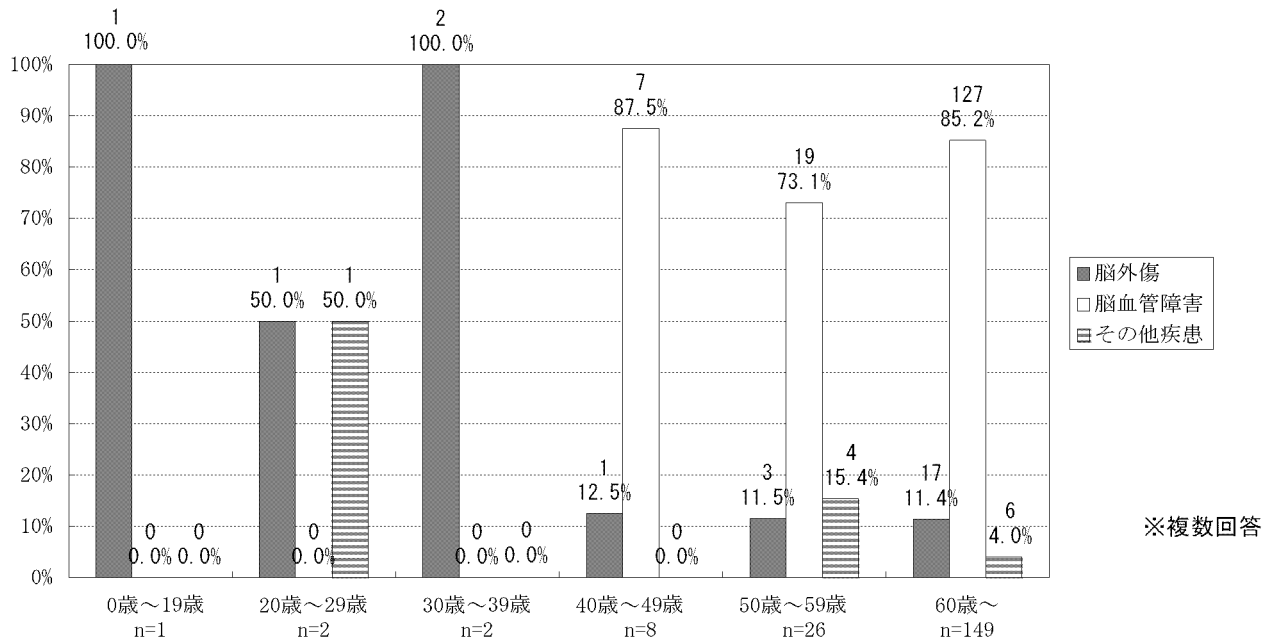
①原因疾患

原因疾患は、脳外傷が26人（12.6%）、脳血管障害が167人（81.1%）、その他疾患が12人（5.8%）であり、脳血管障害が一番多かった。



②年齢別の原因疾患

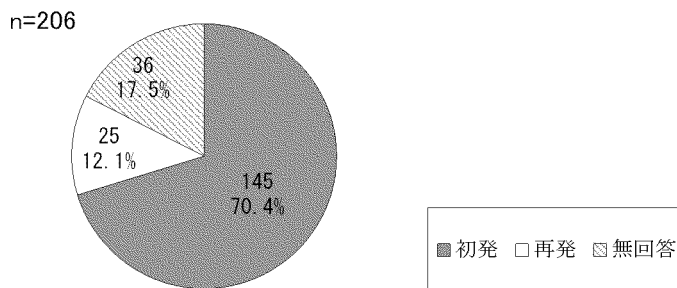
原因疾患を年齢別にみると、39歳以下は脳外傷が多く、40歳以上については脳血管障害が多かった。また、平均発症（受傷）年齢は70.5歳であった。



※原因疾患が複数の場合は、それぞれに人数をカウントしている。

③初発・再発

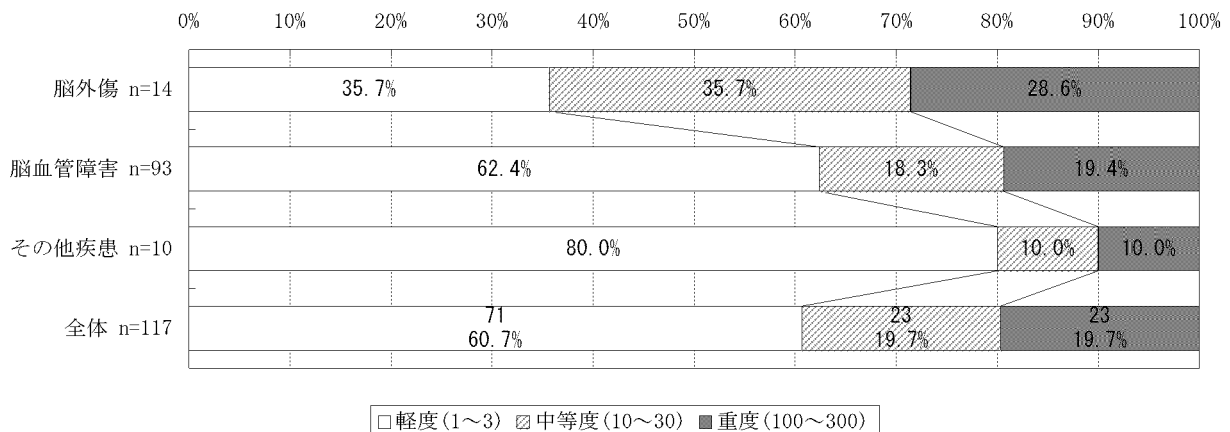
脳損傷の発症（受傷）は、初発が145人（70.4%）、再発が25人（12.1%）であった。



8) 発症（受傷）時の意識レベル 問11

①JCS

JCSは、軽度が71人（60.7%）で一番多かった。

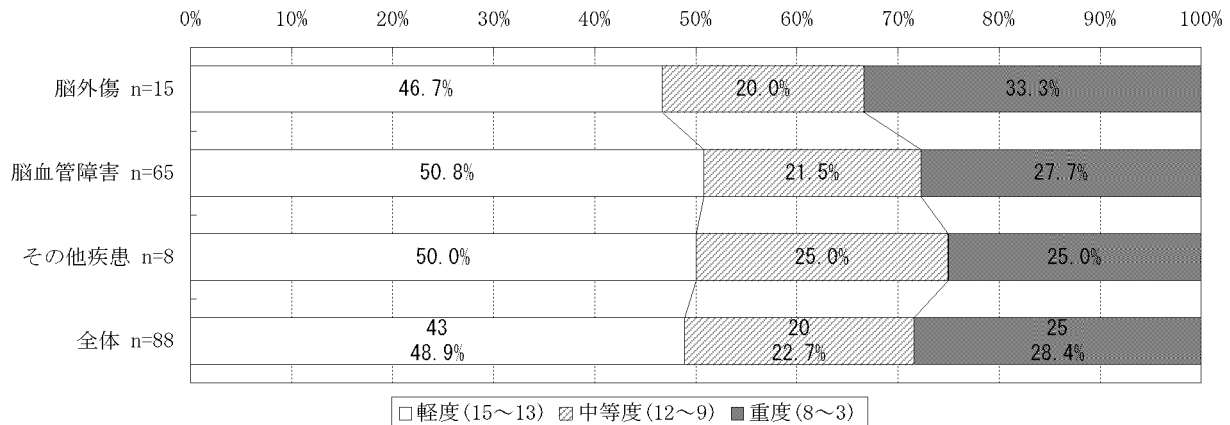


※原因疾患の重複及び無回答があるため全体と原因疾患の合計値は合わない。

無回答:89

②GCS

GCSは、軽度が43人（48.9%）で一番多く、次いで重度が25人（28.4%）であった。

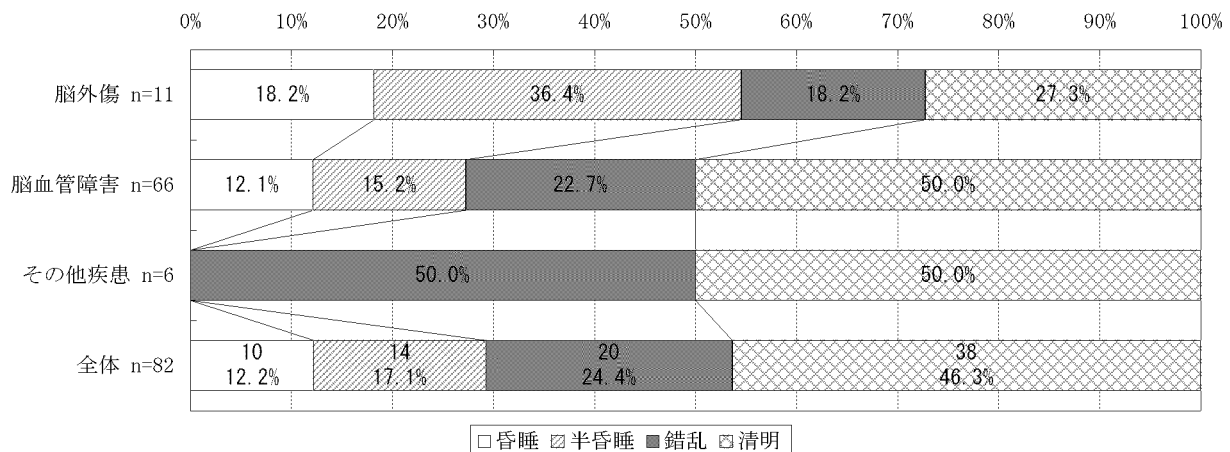


※原因疾患の重複及び無回答があるため全体と原因疾患の合計値は合わない。

無回答: 118

③意識状態

意識状態は、清明が38人（46.3%）で一番多く、次いで錯乱が20人（24.4%）であった。

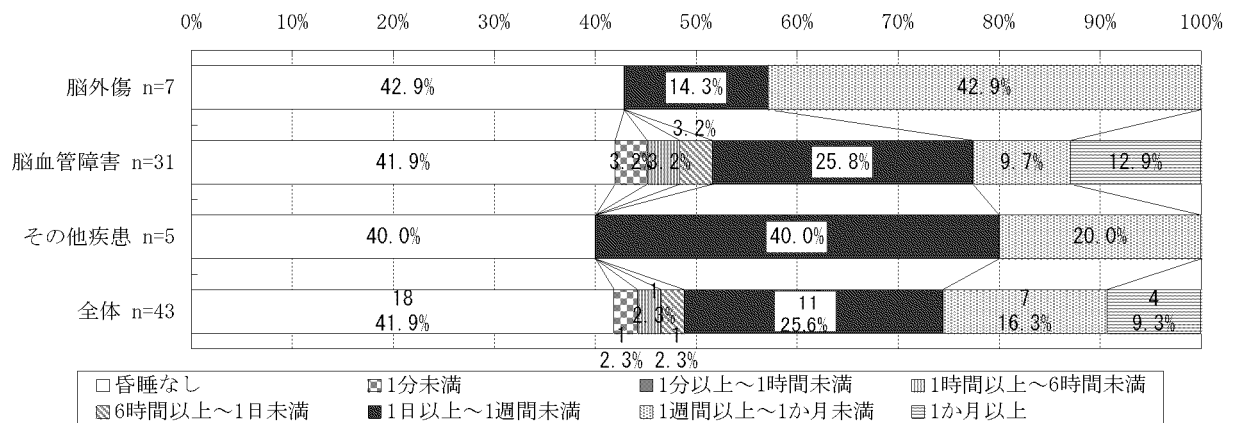


※原因疾患の重複及び無回答があるため全体と原因疾患の合計値は合わない。

無回答: 124

④意識障害持続時間（開眼し相手がわかるまでの時間）

意識障害持続時間は、昏睡なしが18人（41.9%）で一番多く、次いで1日以上～1週間未満が11人（25.6%）であった。



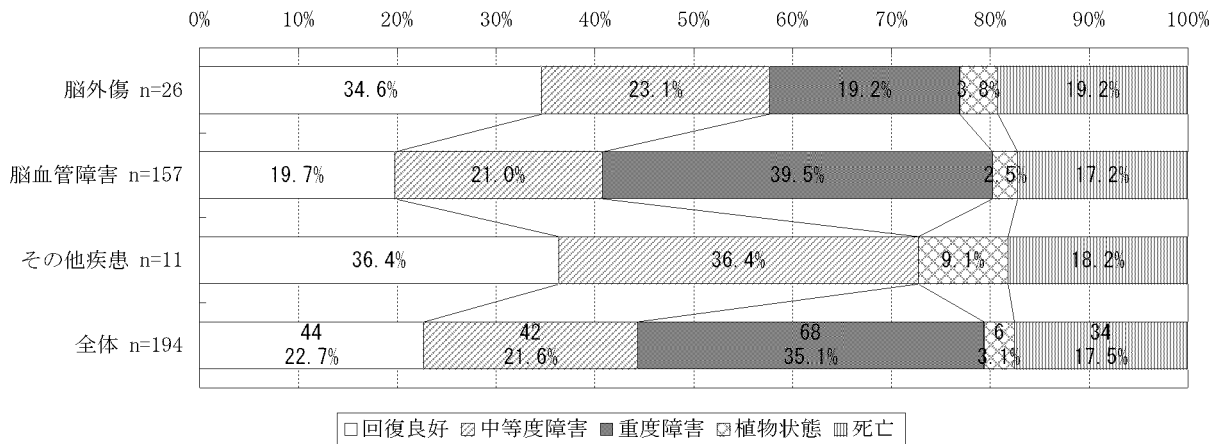
※原因疾患の重複及び無回答があるため全体と原因疾患の合計値は合わない。

無回答: 163

9) 退院時の状態 問13

① 転帰

転帰は、重度障害が68人（35.1%）で一番多く、次いで回復良好が44人（22.7%）であった。



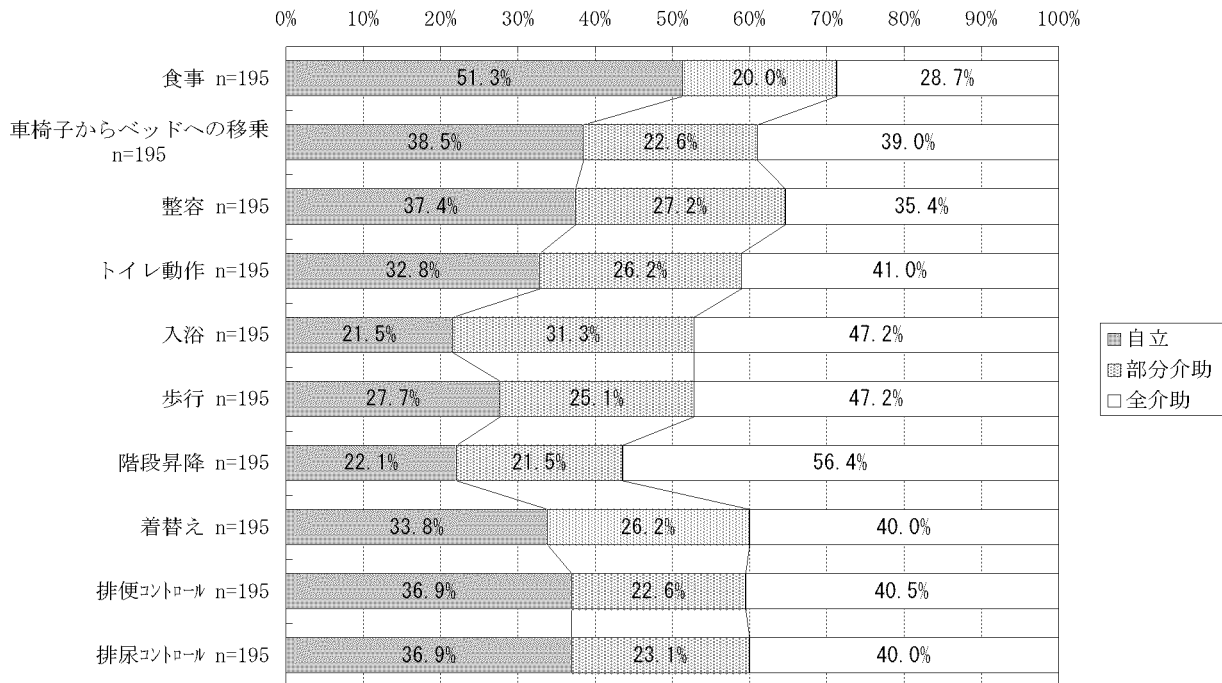
※原因疾患の重複及び無回答があるため全体と原因疾患の合計値は合わない。

無回答:12

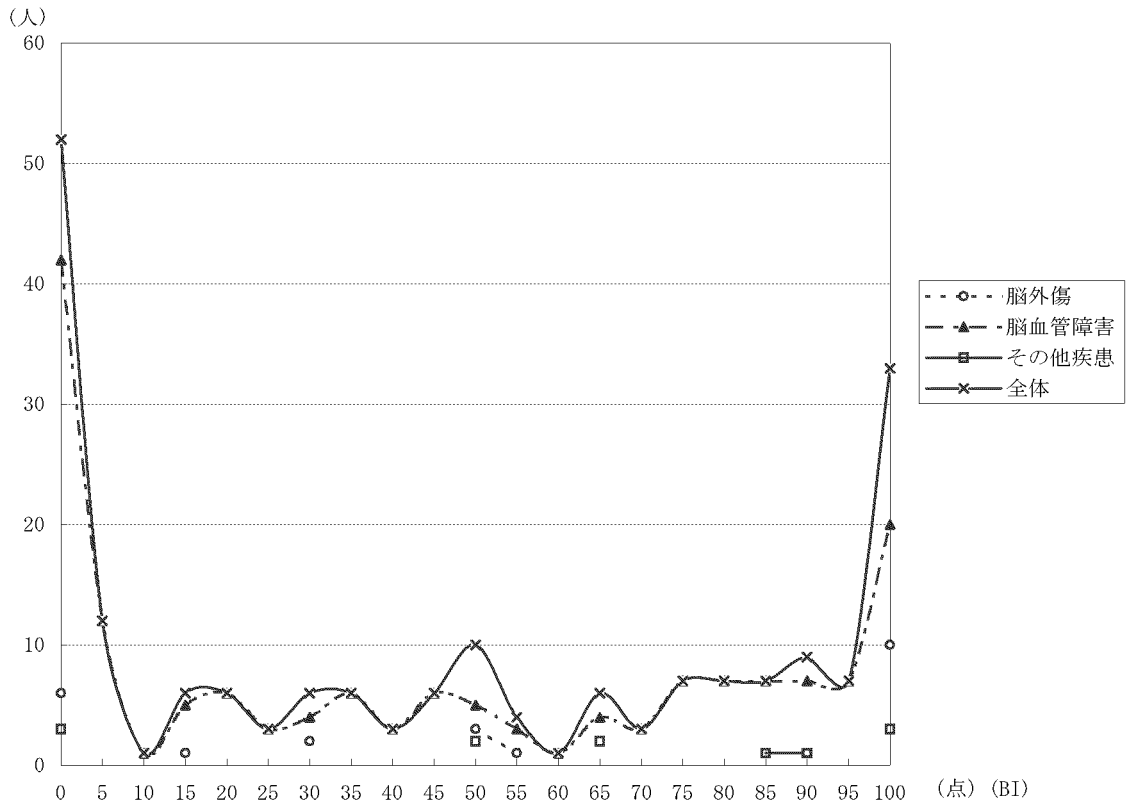
② 日常生活能力

日常生活能力は、食事については、半数が自立しているが、その他の日常生活においては半数以上が部分介助もしくは介助を必要としていた。また、バーセルインデックスは0～55点が115人（59.0%）、60点～75点が17人（8.7%）、80点～100点が63人（32.3%）であった。

■ 日常生活能力

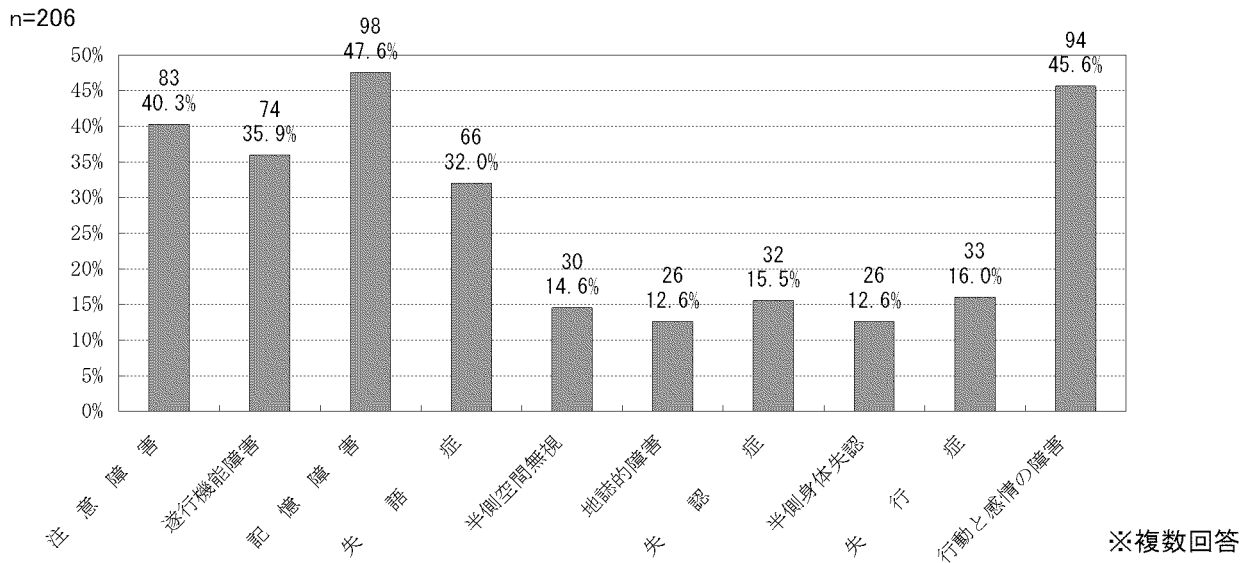


■バーセルインデックス(BI)
n=195



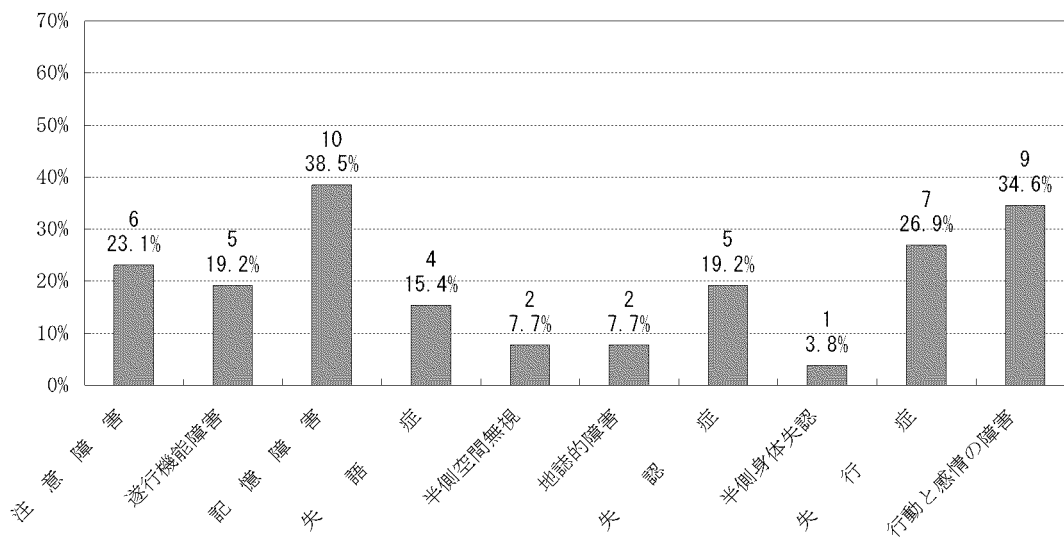
③高次脳機能障害

高次脳機能障害の内容として、記憶障害が98人(47.6%)で一番多く、次いで行動と感情の障害が94人(45.6%)、注意障害が83人(40.3%)であった。



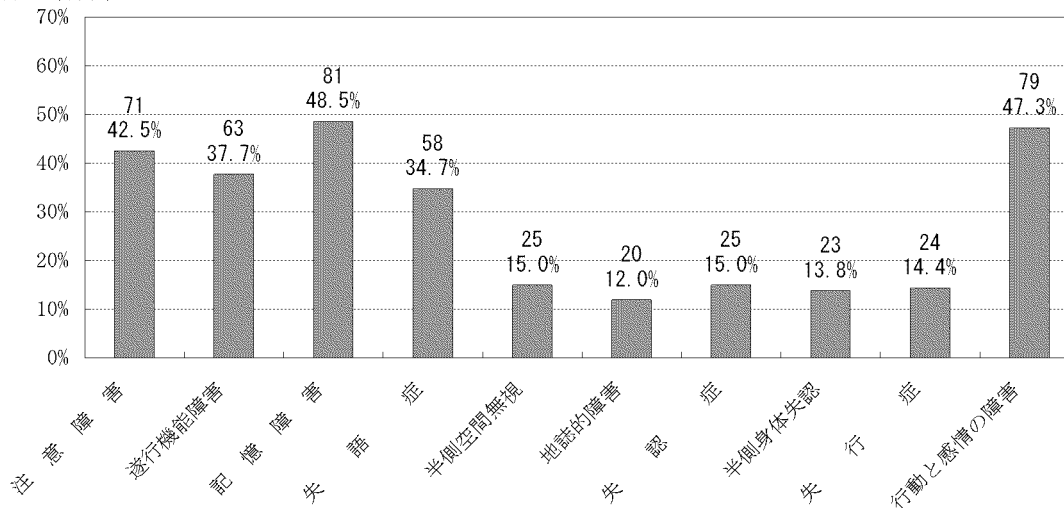
また、原因疾患別に各障害を比較すると、いずれの場合でも記憶障害が一番多かった。2番目に多かったのは、脳外傷及び脳血管障害では行動と感情の障害であった。

a. 脳外傷 n=26



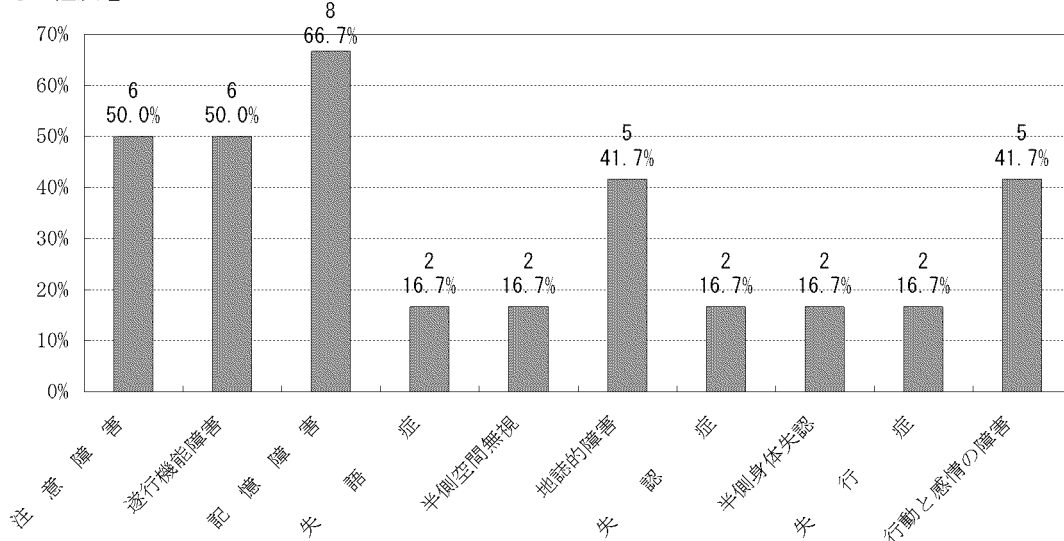
※複数回答

b. 脳血管障害 n=167



※複数回答

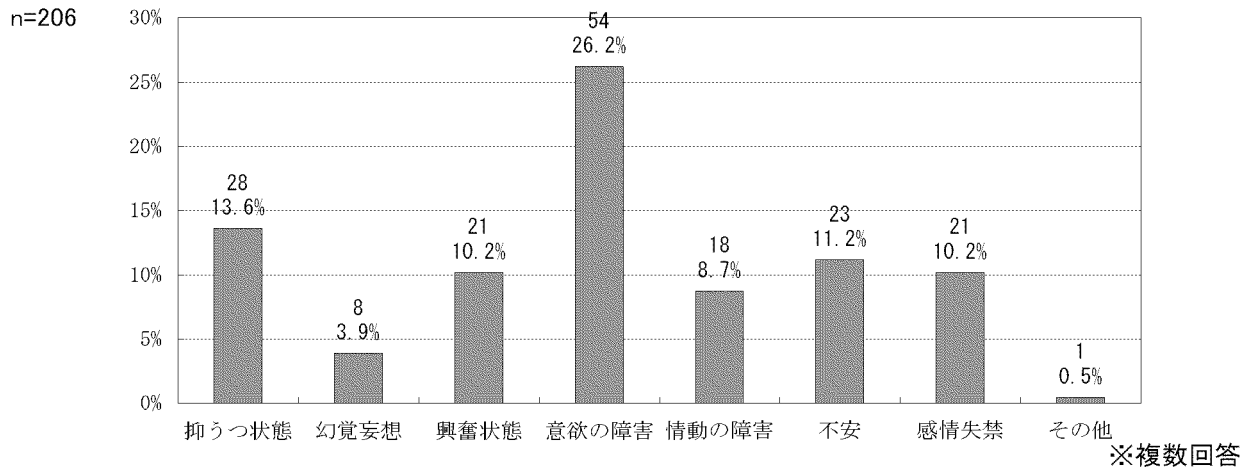
c. その他疾患 n=12



※複数回答

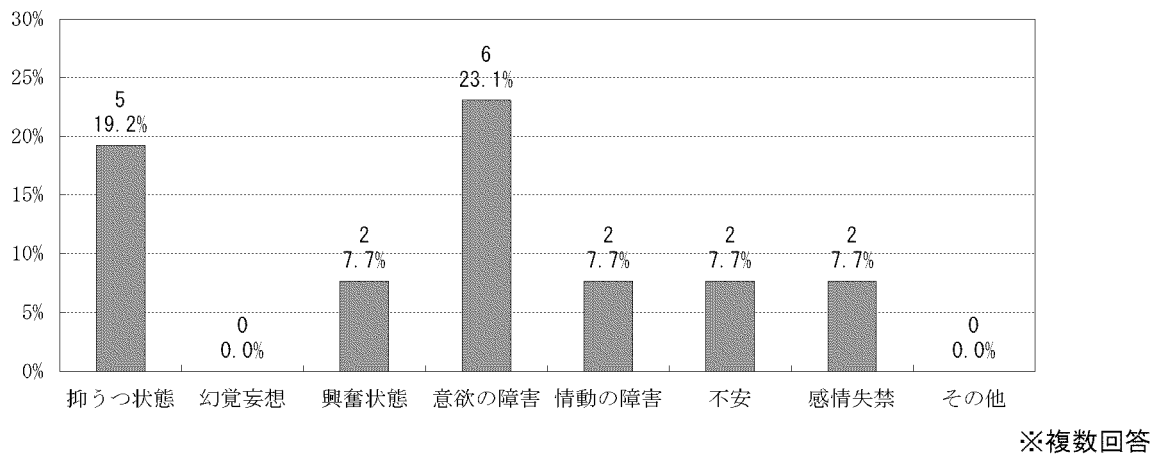
④行動と感情の障害

行動と感情の障害の内容として、意欲の障害が54人（26.2%）で一番多く、次いで抑うつ状態が28人（13.6%）であった。

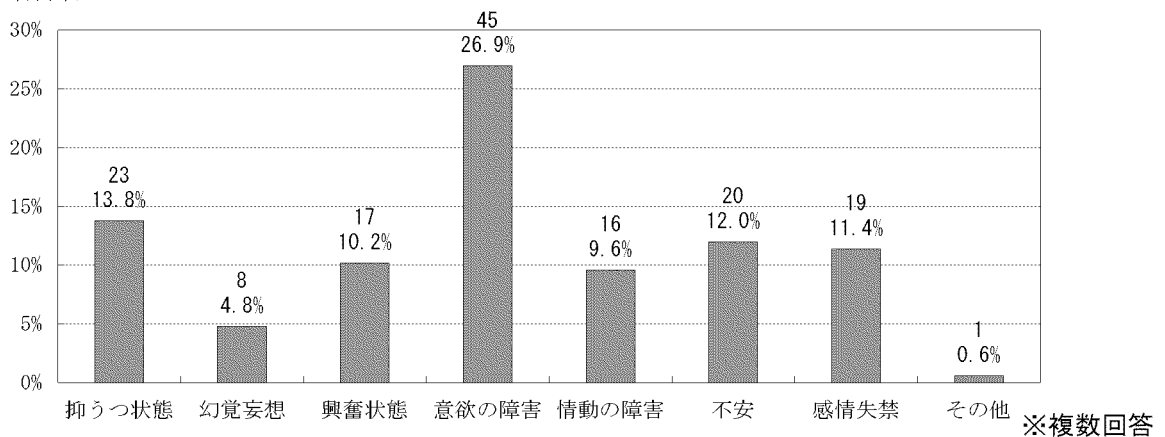


また、原因疾患別にみるといずれの場合も意欲の障害が一番多かった。次に多かったのは、脳外傷、脳血管障害では抑うつ状態であった。

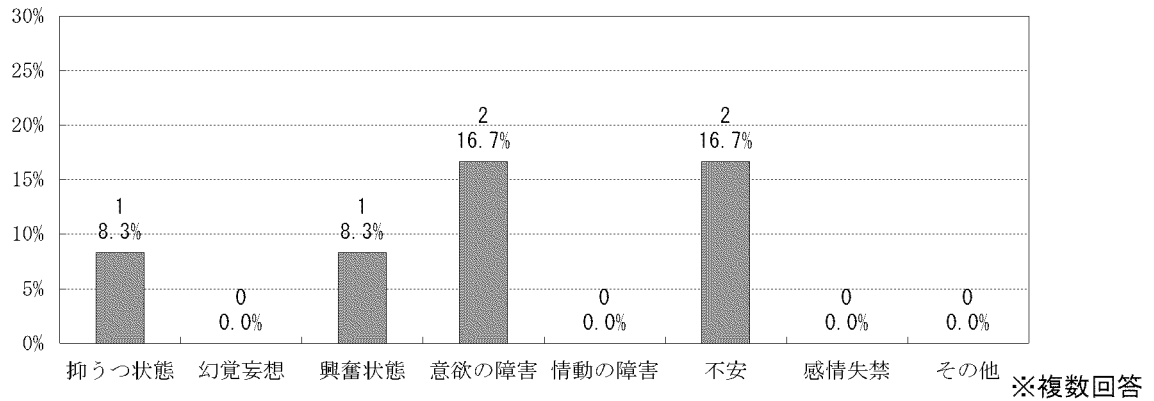
a. 脳外傷 n=26



b. 脳血管障害 n=167

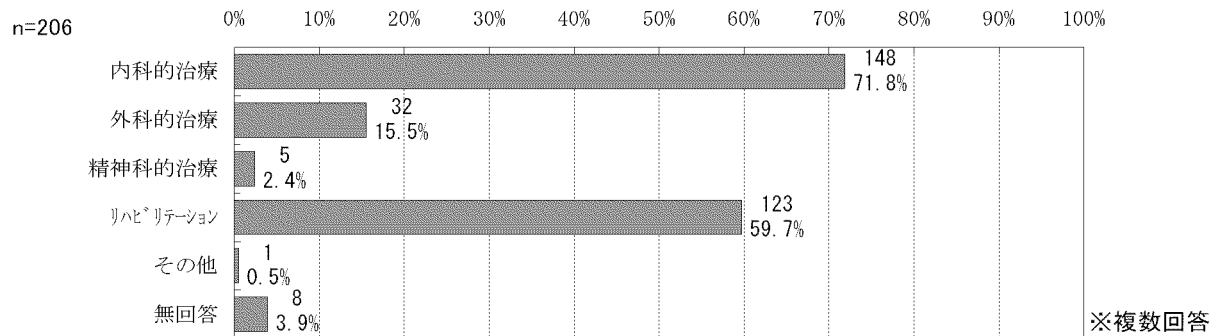


c. その他の疾患 n=12



10) 入院中の治療 問14

入院中の治療は、内科的治療148人（71.8%）が一番多く、次いでリハビリテーションが123人（59.7%）であった。



11) 退院後の行き先 問15

退院後の行き先は自宅が79人（38.3%）が一番多く、次いで病院が64人（31.1%）、施設入所が24人（11.7%）であった。また、転院先の病院の内訳はリハビリテーション科が25人（39.1%）が一番多く、次いで内科が23人（35.9%）であった。

